

## 注意

1. この方法では、検水中のひ酸イオン(As(V))と亜ひ酸イオン(As(III))が測定可能で、その他の形態のひ素は測定できません。
2. 発色時のpHは、約2です。pHが2～9の範囲をこえる検水は希水酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
3. 検水に濁り、着色が多いとゼロ調整ができない場合があります。ろ過、希釈等を行なってください。
4. ゼロ調整に使用する専用カップと測定に使用する専用カップは同じものをご使用ください。
5. 測定範囲の上限値を超えた場合、「OVER」が表示または上限値が点滅し、下限値未満の場合、「UNDER」が表示または下限値が点滅します。
6. 検水中のひ素濃度が高いと考えられる場合、あるいは測定値が上限値以上であった場合には、測定範囲に入るように検水を希釈してください。
7. 酸化性物質を多く含む検水は測定できません。
8. 気温より水温が極端に低い場合には、専用カップに結露が生じて曇り、測定値が高くなります。
9. 測定するときに、チューブや専用カップ内に試薬が溶解せずに残っていても、発色には影響ありません。
10. チューブから測定液を専用カップに戻す際は気泡が生じないように静かに行なってください。専用カップ内壁に気泡等が付着すると測定値が高くなりますので、付いた場合は専用カップを指ではじくなどして、できる限り取り除いてください。低濃度側では、誤差が大きくなりますので、特にご注意ください。
11. 専用カップの転倒、取り忘れ等で本体(特にセルボックス)に検水、測定液がこぼれないように十分ご注意ください。万一、こぼれた場合には、直ちに拭きとり、軽く水を含ませた柔らかい布で数回拭いてください。
12. 測定値はカウントダウン後の自動表示だけでなく、手動でも得られます。詳細は別冊の『デジタルバックテスト取扱説明書 14ページ』をご覧ください。
13. 専用カップがセットされていない時に表示される数値は無効です。
14. デジタルバックテストのオートパワーオフは60分に設定されています。
15. 専用カップはポリスチレンでできています。
16. 専用カップ(10個入り 型式:WAK-CC10)は別売しています。弊社までお問い合わせください。

## 共存物質の影響

検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。下記は亜ひ酸イオン(As(III))標準液に単一物質を添加した場合の測定値への影響データです。

1000mg/L 以下は影響しない	・・・	B <sup>3+</sup> (ほう酸)、Cl <sup>-</sup> 、CN <sup>-</sup> 、K <sup>+</sup> 、Na <sup>+</sup> 、NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> 、SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> 、Zn <sup>2+</sup>
500mg/L	//	・・・ Ca <sup>2+</sup> 、Mg <sup>2+</sup> 、NO <sub>3</sub> <sup>-</sup>
200mg/L	//	・・・ NO <sub>2</sub> <sup>-</sup>
100mg/L	//	・・・ Cr <sup>3+</sup> 、Ni <sup>2+</sup> 、シリカ
50mg/L	//	・・・ Al <sup>3+</sup> 、Co <sup>2+</sup> 、F <sup>-</sup> 、I <sup>-</sup> 、Mn <sup>2+</sup> 、Mo <sup>6+</sup> (モリブデン酸)、フェノール
10mg/L	//	・・・ Fe <sup>2+</sup> 、Fe <sup>3+</sup>
5mg/L	//	・・・ Cr <sup>6+</sup> (クロム酸)
1mg/L	//	・・・ PO <sub>4</sub> <sup>3-</sup> 、残留塩素
少しでも影響する	・・・・・・・	Ba <sup>2+</sup> 、Cu <sup>2+</sup>

海水は測定できません。

酸化性物質、還元性物質が影響する場合があります。

上記以外の物質でも発色時に濁りが生じた場合は測定できません。

青色の発色がないにもかかわらず、測定値が得られた場合は、発色試薬によるpHの変化に伴う濁りの発生などが考えられますのでご注意ください。

## 水質計用 DPR試薬

# ひ素

型式 DPR-As

## 使用法

モリブデン青吸光光度法による  
Molybdenum Blue Absorptiometry

測定範囲 As 0.20～3.00 mg/L(ppm)

水質計 デジタルバックテストひ素 (型式:DPM-As, DPM2-As)  
デジタルバックテスト・マルチ (型式:DPM-MT)  
デジタルバックテスト・マルチSP (型式:DPM-MTSP)

測定時間 約30分(チューブ吸い込み後 5分)



この製品は、モリブデン青吸光光度法の発色原理を用いており、検水中に含まれるひ素(ひ酸イオンおよび亜ひ酸イオン)を水質計で測定するための専用試薬です。測定には、**デジタルバックテストひ素(型式:DPM2-As)** または **デジタルバックテスト・マルチSP(型式:DPM-MTSP)**が必要です。

モリブデン青法では、検水中に共存するりん酸イオン(PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>)がひ素と同等に発色し、測定に影響を及ぼします。本法ではりん酸イオンのみを発色させる工程(ゼロ調整)と、ひ素およびりん酸イオンを発色させる工程で2回吸光度を測定し、その差分からひ素の測定値を計算しています。

ただし、**りん酸イオンが1mg/L以上共存する場合は、誤差が大きくなるため、ひ素を測定することはできません。**

## 使用前、使用後の取扱い注意

R-1試薬・R-4試薬の内容物および測定液は**強酸性**です。

- 応急措置** 内容物が目に入ってしまったら → すぐに15分間以上、水で洗い流してください。痛みや異常がなくても直後に必ず眼科医の診断を受けてください。
- 内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。
- 内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。

内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。特に試薬を飲み込んだ場合には、水または牛乳を多量に飲み、すぐに医師の診断を受けてください。試薬の有害性については外箱背面の「GHSに基づく表示」をご参照ください。

**保管** ラミネート包装を開封した後は、保存袋に入れ、なるべく早くご使用ください。特に夏場や梅雨時には保存状態により数日で試薬が劣化することもあります。

**廃棄** 事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。

## 試薬に関するお知らせ

R-1試薬は硫酸、R-4試薬は硫酸、七モリブデン酸六アンモニウム四水和物を含んでおり、取扱者へのSDSの提供を義務づけた「労働安全衛生法 特定化学物質 第3類物質」および「労働安全衛生法施行令 名称等を表示し、または通知すべき危険物及び有害物」に該当します。チューブ試薬は硫酸すずを含んでおり、同じく「労働安全衛生法施行令 名称等を通知すべき危険物及び有害物」に該当します。

「PRTR法」「毒物及び劇物取締法」には該当しません。

なお、R-3試薬の過マンガン酸カリウムの割合は0.1%未満です。

測定液はpH2以下です。



株式会社 **共立理化学研究所**  
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

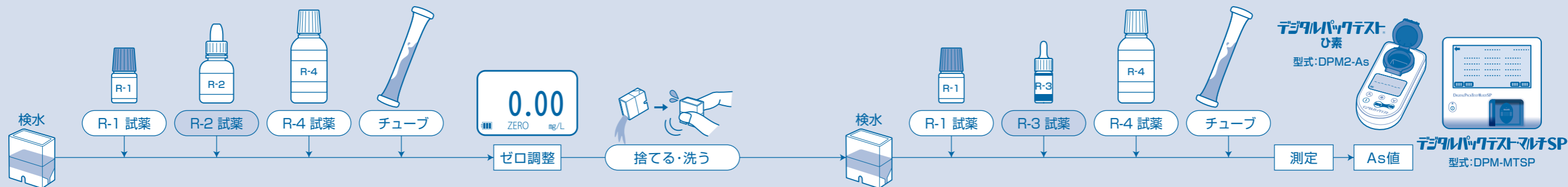
〒145-0071 東京都大田区田園調布5-37-11  
TEL:03-3721-9207 FAX:03-3721-0666  
https://kyoritsu-lab.co.jp kyoritsu@kyoritsu-lab.co.jp

# 測り方

DPR試薬 ひ素

## 1. ゼロ調整用

## 2. 測定用



注意：りん酸イオンは、ひ素イオンと同等に発色します。必ず「測り方」①～⑩を行ない、りん酸イオンのみの発色でゼロ調整をしてください。

### 1. ゼロ調整用

- ① 検水を専用カップの標線(1.5mL)まで入れ、滴ピンのR-1試薬を1滴加えます。蓋をして2～3回振りまします。
- ② 滴ピンのR-2試薬を2滴加えます。蓋をして2～3回振りまします。
- ③ 10分間静置まします。
- ④ 滴ピンのR-4試薬を4滴加えます。蓋をして2～3回振りまします。
- ⑤ チューブ先端のラインを引き抜きます。
- ⑥ 穴を上にして指でチューブの下半分を強くつまみ、中の空気を追い出します。
- ⑦ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ指をゆるめ、専用カップの検水を全量吸い込みます。
- ⑧ 液がもれないようにかかるく5～6回振り混ぜ、専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻します。5分間静置まします。
- ⑨ 水質計の電源を入れます。デジタルバックテストの場合は、長押しです。デジタルバックテスト・マルチSPの場合は、【濃度測定】>【測定項目 As】を選択まします。専用カップのガイドが手前になるようにセルボックスにセットし、静置まします。※1
- ⑩ ⑧の5分後に、0調ボタンを押まします。※2 ゼロ調整終了後、専用カップを取り出まします。同じ専用カップと蓋を次の測定で使用するため、測定液を捨て、検水または純水で洗いまします。→⑪へ

### 2. 測定用

- ① 検水を専用カップの標線(1.5mL)まで入れ、滴ピンのR-1試薬を1滴加えます。
- ② スポイトピンのR-3試薬を1滴加えます。蓋をして2～3回振りまします。
- ③ 滴ピンのR-4試薬を4滴加えます。蓋をして2～3回振りまします。
- ④ チューブ先端のラインを引き抜きます。
- ⑤ 穴を上にして指でチューブの下半分を強くつまみ、中の空気を追い出します。
- ⑥ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ指をゆるめ、専用カップの検水を全量吸い込みます。
- ⑦ ⑥と同時に測定ボタンを押まします。カウントダウンが始まります。
- ⑧ 液がもれないようにかかるく5～6回振り混ぜまします。
- ⑨ 専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻まします。専用カップをセルボックスに再びセットし、静置まします。※1 5分後に測定値が表示まします。

※1 気泡がついている場合は、カップを指ではじいて壁面の気泡を取り除いてください。  
 ※2 ゼロ調整ができない場合は、この方法では測定できません。(SE:5 表示)

